



日本弁理士会 副会長

福田 伸一

## 今月のことば

### はじめに

本年度執行役員会が始動して数ヶ月が経過した。

スケジュール表を見ると、就任当初の4月は関係方面への挨拶、諮問事項等の検討／確認や日程調整等、各種委員会等の立ち上げ等に向けて、日々、動いていたような気がしている。そして、5月は定期総会の準備／開催、6月中旬から7月中旬にかけては支部懇親会、地方自治体等への挨拶、その他のスケジュールが目白押しであった。また、次年度会務検討委員会において、ある程度の予想はしていたものの、実際に開催される毎週水曜日の執行役員会においては、議案の数や内容の濃さに、ある種の驚きを感じたものである。

そうこうしているうちに、いつの間にか季節は春から夏に変わっていた。今年は猛暑である。

今、傍らのテレビでは高校野球や北京五輪が映し出されている。

中島淳会長の下、執行役員会全員がトップスピードで走り続けた数ヶ月であった。

### 出会い

この数ヶ月、多くの人と出会い、得難い経験をさせて頂いた。

お会いした政治家は、皆、日本という国を想い、国策との関係において知的財産を論じ、知的財産の担い手としての弁理士に対して熱い期待を寄せられている。

行政庁の方も、いかにして、この国の知的財産制度を有効に機能させるべきかを考え、その制度

## 夏

## monthly word

の推進役である弁理士と真の協力関係を築くことを求めている。

知的財産権に関する他の団体の方も同様である。

担当副会長としての日本弁理士会委員会活動等においても、これまで以上に、数多くの会員と出会うことができた。

総合政策検討委員会は日本弁理士会や弁理士に関する直近の課題、中期的課題について議論している。

知的財産政策本部は知的財産推進計画2008、更には知的財産推進計画2009について検討し、この国の知的財産制度のありかたについて議論している。

弁理士法改正特別委員会は平成20年改正弁理士法の対応項目の会員周知、政省令について議論している。

知的財産支援センターやパテントコンテスト委員会は、関係省庁、地方自治体等を交え、地域振興、中小企業、大学、高等学校、一般への知的財産啓発の実働部隊として精力的に様々な活動をしている。

例規改正特別委員会や例規委員会は弁理士法、その他の関係法規との関係で不具合なく各種規定を制定／改正するために様々な検討をしている。

広報センターは主に若手会員が中心になって対外的アピールのための方策を検討し、実行している。

本書の発行責任を有するパテント編集委員会は

読者のニーズに応じた記事を企画するべく活発に議論している。

日本弁理士政治連盟は政治-知的財産の中での弁理士制度等について活発に議論している。

そのような多くの議論等の場に出会った会員は、時に意見の食い違いがあろうとも、皆、熱い心を持つ弁理士である。

## 弁理士の日

7月6日、東京北の丸にある科学技術館において弁理士の日記念イベントを開催した。担当副会長として今年のテーマは「ファミリー食堂」である。その昔、デパートには必ずといって良いほどファミリー食堂があり、和食、洋食、中華等、ありとあらゆるメニューが揃っていた。今年は、それを知的財産や弁理士制度の中で再現しようと試みたのである。

大人向けには東京大学、独立行政法人情報通信研究機構の協力の下、高度な技術を駆使した成果物の展示/実演、子供向けには電子紙芝居、ロボット製作を企画した。

子供達が製作したロボットを疑似特許事務所で意匠登録出願願書に仕立て、疑似特許庁では意匠登録証を発行したり、弁理士会キャラクターである「はっぴょん」の敵方となる悪キャラのネーミングコンテストを行ったり、クイズ形式で一日弁理士証を発行したりした。

とはいえ、これだけ盛り沢山の企画を実行する

となると相当数のスタッフが必要である。そこで、会場整理、子供達の製作物の指導等のため、事前設営のワーキンググループメンバーに加え、当日ボランティアを公募した。当初、日曜日のイベントであることもあり、誰も応募してくれないのではないかと、という心配があったが、それは見事に裏切られ、相当数の会員、しかも、委員会等には参加したことのない若い会員がボランティアに応募してくれた。

イベント終了後、応募の理由を尋ねたところ、平日の会務参加は仕事との関係で難しいけれど日曜日は自分の時間だし、何よりも自分だって弁理士だから、という答えであった。

彼らもまた、熱い心を持った弁理士である。

## まとめにかえて

景気後退等、弁理士を取巻く昨今の環境は必ずしも良いとは言えないかもしれない。

しかし、数多くの弁理士の熱い心がある限り、弁理士は進化し続け、弁理士制度は発展し続けると信じている。そして、弁理士は、国策としての知的財産の担い手として、真に日本を想う数多くの人たちの期待に応えていかなければならない。

季節は秋、そして冬へと向かうが、弁理士の暑い夏は終わらない。

そのために、トップスピードのまま走り続けたいと思っている。

弁理士 LOVE !